

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立中央小学校

学校の教育目標

- | | | | |
|--------------|-----------|-------|-----|
| ・自分も人も大切に子ども | …○ハートだ! | 中央っ子! | (徳) |
| ・よく考え行動する子ども | …○チャレンジだ! | 中央っ子! | (知) |
| ・心も身体も健康な子ども | …○ファイトだ! | 中央っ子! | (体) |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

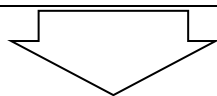
- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 各教科の「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的に学びに向かい、深い学びにつなげようとする資質・能力 タブレット端末等の ICT 機器を活用し、課題解決し、表現・発信できる能力 |
|---|

令和2年度「学習力サポートテスト」と令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組み、読み解く力は身に付いてきている。低学年は、既習の漢字を活用する力と話す力を高める必要がある。中・高学年は、既習の漢字を活用する力とローマ字つづりの定着が課題である。また、指定された長さで文章を書くことできる力をさらに高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字を活用する場面が少なく、反復学習の定着が十分とはいえない。 グループやクラス全体での話し合いや深め合う時間の設定が十分とはいえない。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲が高く、数学的な考え方や既習事項を生かして問題を解決する力は身に付いてきている。低学年は「測定」の技能の定着が課題である。中・高学年は、数量や図形について技能の定着を確実にすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しく立式し、式の意味を文章化する力、算数用語を適切に用いて考えを説明するのが苦手である。 筋道を立てて自分の考えを説明するのが苦手である。 既習事項の繰り返し学習が十分とはいえない。 考えを深める時間や発表し深め合う時間の設定が十分とはいえない。 個別の支援が十分とはいえない。 具体物を使った活動が十分とはいえない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲をもって学習に取り組んでいる。今後は、地図の方位を読み取ったり、記号や読み方についての理解を深めたり、資料から情報を分析して総合的に考えたりする力をさらに高めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活と関連付けた動機付けや問題提起が十分とはいえない。 知識を活用したり、資料を読み取り比較したりする時間や支援が十分とはいえない。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に知識、基礎・基本を理解する力は身に付いてきている。関心・意欲が高めることと、植物の成長の様子についての理解を深めることが課題である。観察や実験の充実を図り、知識や技能を高めることが十分とは言えない。また、必要な情報を正確に読み取り、取り出す力、科学的な見方・考え方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物や生き物に触れ合い観察する時間や実験の時間が十分とはいえない。 知識を活用したり、問題意識をもって情報に向き合ったりする時間の設定が十分とはいえない。 一部の児童にとって、導入の仕方が関心・意欲を高めるようなものになっていない。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組んでいる。低学年では、外国語表現の楽しさをより感じ取ることができていることが課題である。中・高学年はコミュニケーションの楽しさを知識の習得のバランスをとりつつ国際理解教育と関連付けて主体的に学習に取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活を関連付けた動機付けや問題提起が十分とはいえない。 既習事項の繰り返し練習する学習が十分とはいえない。

体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組み、体力テストの結果では、全国的に全国や東京都の平均を上回った。体力テストの結果から、柔軟性や持久力、投力、俊敏性を高めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の各部を使った様々な運動の経験が少ない。 ・運動量の確保が十分とはいえない。
-----	---	--

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	基本的な学習規律を確立し、落ち着いて学習に取り組むことができるようにする。学級の75%以上の子どもたちがじっくりと考え、自分の言葉で発表し、話し合いを深めていくことができるようにする。
②授業改善	OJTの充実を図り、日常的に教員同士の授業を見合い、日々の実践の中で授業改善に努める。学期末のテストにおいて、基礎・基本の学習の定着率90%以上を目指し、子どもたちが分かる授業を実践する。
③教員の指導力	個別の支援が必要な子どもたちには特に配慮し、一人一人への課題設定とそれに応じた支援を行い、成長を見取る。また、各教科の「見方・考え方」を理解し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を全教員が実践する。
④家庭との連携	「中央小家庭学習スタンダード(宿題)」を基に、継続的な家庭学習を促し、個の実態に対応しながら100%の子どもたちが宿題に取り組むことができるようにする。
⑤体力向上	マイスクールスポーツの全校一輪車活動をはじめ、コーディネーショントレーニングを授業に取り入れて継続的に行い、体力の向上につなげるようにする。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	・「中央小学習スタンダード」で、挨拶・返事の仕方、言葉遣い等の基本的な学習規律を共通理解し、学習にスムーズに取り組み、学習活動が充実できるようにする。
取組Ⅱ	・朝学習(15分)を週に2回、年間を通して実施する。計画的・継続的に東京ベーシック・ドリルの診断シートやレディネステストとタブレット端末を使ったドリル学習を活用して、習熟度を踏まえた指導を行う。また、振り返りを丁寧に行うことで、より一層学力の定着を図る。
取組Ⅲ	・主体的で対話的な学習を充実させるために、学習の目標を明確にし、発達段階に応じて自分の考えをもつ指導と、話し方・聞き方の指導を系統的に継続し、定着を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	・定期的にOJT研修会を開催する。各教科の「見方・考え方」や授業についての教員同士の対話を重ねて、考え方や課題等を率直に話し合うことで、授業改善のポイントを自覚し指導技術の向上を図る。

取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を通して、子どもたちが主体的・対話的で深い学びを実現することができる指導法について研究する。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定を丁寧に行い、予想・考察の時間を重視した実験や観察を通して、子どもたちの興味・関心がより高まるような授業を展開していくことで理数教育の充実させ、わかる授業を実践することで、基礎・基本の定着を目指す。

③教員の指導力

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・「中央区小学校学習スタンダード」を共通理解して実践する。日常的にOJT研修会などで情報交換することで、子どもたちへの発問の仕方や支援の仕方について共通理解を図る。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、指導・評価について再度確認する。 ・各種研修会に参加した内容を校内に広め、授業改善に生かす。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援が必要な子どもたちには特に配慮し、実態に即した課題設定と支援の工夫をして成長を見取ることができるように、組織的な連携を図る。

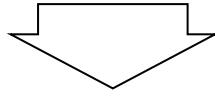
④家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・「中央スタンダード(宿題)」をもとに、復習だけでなく予習も取り入れた家庭学習ができるよう協力を求める。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会・学校公開を中心に、教育活動について保護者の理解を求め、協力を依頼するとともに、学校と家庭が一体となり、子どもたちの成長を支援しようとする意識を醸成する。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を年2回実施し、個々への学習のサポートを家庭と連携して行うようにする。

⑤体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・連続性のある運動量を確保できるような場の設定をする。また、準備運動ではコーディネーショントレーニング等、弾みや反動を使った動的なストレッチ等を継続的に行う。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツである全校一輪車活動を継続する。

取組Ⅲ	・ 体育指導補助員との連携を図り、指導を充実させる。
-----	----------------------------



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤		
② 授業改善		
③ 教員の指導力		
④ 家庭との連携		
⑤ 体力向上		